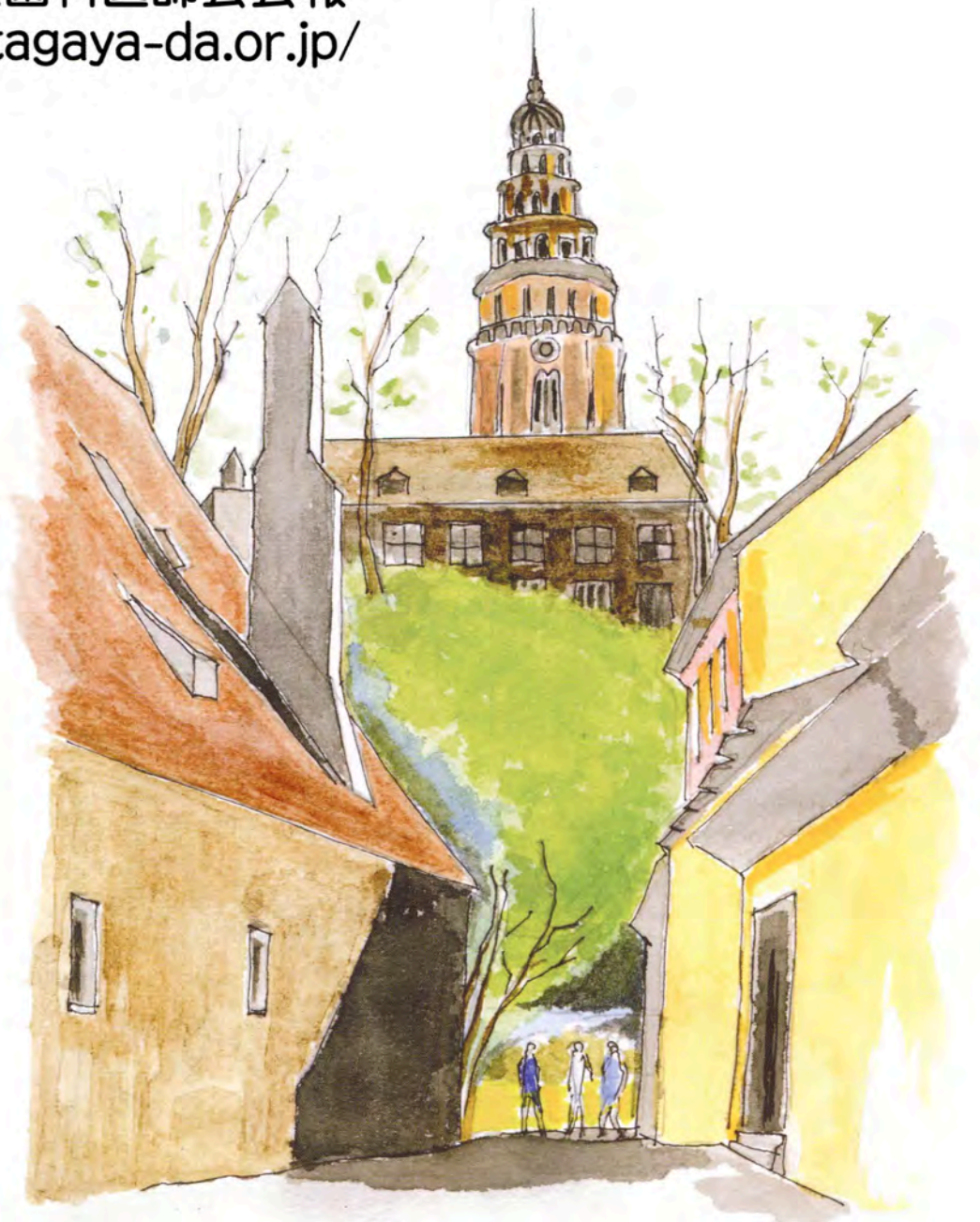


いなかおか

公益社団法人
東京都世田谷区歯科医師会会報
<http://www.setagaya-da.or.jp/>



I

2011

No. 162

東南アジア旅行の知的楽しみ方 「インド化」された国々へ 遺跡の旅—XXXIV

下馬部会 齋藤賢一

今回は奈良地方当尾の里と柳生街道滝坂道にある石仏や磨崖仏をハイキングしながら見て回りました。今回は奈良地方の二回目として山辺の道を通って飛鳥の不思議な石造物を見て回ります。山辺の道は奈良盆地の東側を南北に走り、平城京と藤原京、飛鳥を結ぶ古代の幹線道路の一つです。

まずは天理駅の近くの石上神宮から出発するのですが、先に天理からダムのある山の中に入った桃尾という所に行きます。山の中のとても寂しい小径を15分ほど登って行きますと素晴らしい滝が目飛び込みます。この滝は山伏などの修験者が修行した場所の

様で、周囲の岩には不動明王の磨崖仏や地藏菩薩などの石仏が数体祀られています。その中でも伊派の名工、伊行経の作として知られる如意輪観音石仏はとても良い出来であります(写-1)。マイナスイオンをたっぷり吸収して石上神宮へ戻ります。



写-1「如意輪観音」 桃尾

石上神宮は大神神社とともに我が国最古の神社と言われ、物部氏の氏神で、国宝の七支刀で有名です。境内から大きな池が残る内山永久寺跡をとおり、竹之内と萱生の環濠集落を目指します。環濠集落とは戦国戦乱の時代に人々は自衛のため村の周囲に堀をめぐらして外敵を防いだ集落のことです。この付近には今も壕の一部が残り、昔の面影をとどめています(写-



写-2「環濠集落」 竹之内

2)。集落を抜けると最初の目的地長岳寺です。長岳寺は弘法大師空海が開いたと言われる名刹でツツジの名所です。この周囲には古墳が沢山あり古墳から出てきた石棺や石材を利用して仏像を彫った石棺仏が沢山あります。その代表が長岳寺の弥勒石棺仏で鎌倉中期の作品です(写-3)。境内には沢山の石造物があり、奥の院には等身大の不動明王が彫られています。次は大神神社を目指して崇神天皇陵、景行天皇陵にそ



写-3「弥勒石棺仏」 長岳寺

って進みます。ここから卑弥呼の墓と言われる箸墓古墳はJR桜井線を越えてすぐです。道は三輪山に沿っており、三輪山をご神体とする神社が続きます。桧原神社には社殿は一切なく、端垣の中に独特の三ツ鳥居(三輪鳥居)があるだけです(写-



写-4 「三ツ鳥居」 松原神社

4)。狭井神社は立派な拝殿を持っていますが三輪山がご神体なので本殿はありません。大神神社は日本で最も古い神社の一つで初めは松原神社のように三ツ鳥居だけでしたが17世紀に立派な拝殿が出来ました。今でも拝殿の奥、禁足地との境には三ツ鳥居が立っています。次の目的地はここから桜井駅へ向かう途中にある金谷の石仏です。金谷のあたりはむかしの海柘榴市でとてもにぎやかな所でした。金谷の石仏はお堂の中に安置されています。釈迦如来と弥勒菩薩が凝灰岩に薄肉彫りされており平安後期から鎌倉初期の作と言われています(写-5)。



写-6 「猿石」 吉備姫王墓



写-5 「弥勒菩薩・釈迦如来」 金谷

飛鳥の石造物巡りは近鉄飛鳥駅から始まります。ハイキングコースに従って国道を超え左の方に行くと欽明天皇陵がありその手前に皇極・孝徳両天皇の母の吉備姫王墓があります。この墓の鉄柵の間から飛鳥で一番興味のある猿石と呼ばれているとても奇妙な石造が4体見えます(写-6)。鉄柵の間からは正面しか見えませんが実は背面にも顔が彫刻された二面石で奈良



写-7 「猿石」 高取城跡

文化財研究所飛鳥資料館の庭にレプリカが展示されここでよく観察できます。いつ(飛鳥時代6世紀?)、どこで(発見場所は梅山古墳のそばの田んぼの中)、誰が(渡来人?)、何のために(?)いづれも謎です。本来は5体あり、1体は高取城築城のとき石

材として持ち出され、今も高取城址にあります。どうしてもみたかったので高取城址へ行きましたがとても急な坂を登ったり降りたりととても大変でした（写-7）。

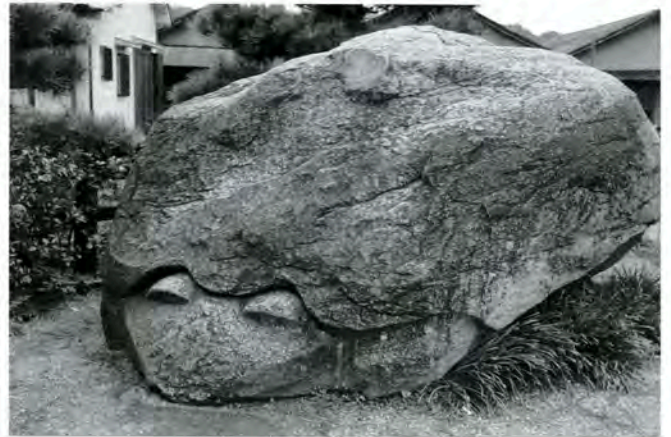
これらの猿石像を見ていると遺跡の旅-XXXでお話した百済最大の寺院弥勒寺址にあった石造物との関係が気になります。弥勒寺は百済武王の王后が693年に建立した三塔三金堂様式の寺院で、石造物は現在解体修理中の西石塔の基壇の四隅に置かれていました（写-8）。実際は石塔の屋根石の上においてあった



写-8「石造物」弥勒寺跡 扶余

そうです。日本でも7世紀の初め頃には寺院建築が盛んになり、百済から僧や技術者が派遣されると日本書紀には書いてあります。私の考えではおそらく7世紀頃、百済からの石工が弥勒寺にあるように建物や塔の四方を守るために制作し安置したのではないかと思います。しかしあのデザインの奇妙さや二面に彫られている意味が分かりません。やはり飛鳥の謎でしょう。

ハイキングコースを進むと「鬼の俎板」、「鬼の雪隠」という横口式石棺の石室とその底石が露出しているところを通り、天武・持統天皇陵をぬけると亀石が見えてきます。亀石は巨大な花崗岩にユーモラスな顔を彫刻してあり、亀に似ていることから亀石と呼ばれていますが蛙という説もあります（写-9）。目的は土地区画の目印、礎石、亀趺（亀の形をした碑の台）などありますがこれも不明です。また制作の途中という意見もあります。さらに10分ほどで聖徳太子が生まれた、あるいは育ったと言われている橘寺に着きます。前には川原寺跡があり、後ろには仏頭山を背景にしてとても素晴らしいロケーションの中にあります。



写-9「亀石」

本堂の左には二面石と言われる、裏表に奇妙な顔を彫刻した自然石があります（写-10）。寺の言い伝えによりますと、善悪二つの顔を表しているそうです。また猿石の一つではないかとも言われています。



写-10「二面石」 橘寺

謎の石造物ではありませんが

石舞台古墳はとても魅力的で、橘寺からとても雰囲気のある道がありますので見学したいと思います。石舞



写-11「石舞台古墳」

台古墳は墳丘の盛土が全く残っておらず、巨大な両袖式の横穴式石室が露呈しているという独特の形状で有名な、わが国における代表的な方墳です（写-11）。天井石の上面が広く平らで、まるで舞台のように見えるその形状から古くから「石舞台」と呼ばれています。被葬者は明らかではありませんが、7世紀初頭の権力者で、大化の改新で滅ぼされた蘇我入鹿の祖父でもある蘇我馬子の墓ではないかといわれています。ぜひ中に入ってみてください。とても不思議な空間です。

次は酒船石と亀型石造物を尋ねます。石舞台古墳から北に向かって歩いて行くと小高い丘の竹やぶの中に、花崗岩で出来た幅約2.3m、長さ約5.5m、厚さ約1mの石造物があります（写-12）。上面にいくつか



写-12「酒船石」



写-13「小判型・亀型石造物」

の皿状のくぼみとそれを結ぶ溝が彫られています。酒を造る道具と考えられ酒船石と呼ばれていますが、詳しいことはわかりません。平成4年に酒船石の北の斜面で石垣が発見され、その後平成12年の大規模な発掘により砂岩で出来た湧水設備と

それに続く小判型石造物と亀型石造物が発見されました（写-13）。構造は湧水施設から流れ出した水が木桶を伝って小判型石造物の水槽に溜まり、さらに小穴から流れた水が亀の鼻に入り、背中の水槽に溜まる仕組みになっています。発掘された場所が谷底の深い所で、さらに周囲を石垣や石敷で閉ざされているため、祭祀に関係する場所と施設ではないかと考えられています。酒船石との関係もまだよくわかりません。酒船石の使用目的や亀型、小判型石造物の形態などとても不思議で興味が尽きません。この遺跡の隣に飛鳥資料館があり先ほどの猿石のレプリカが展示されています。またとても興味深いのが須弥山石と石人像です。須弥山石は砲弾型の三層からなる石の表面に山形の浮き彫りが施されており、下部から水が出る噴水施設です。石人像は老人の男女が抱き合うような形に彫られた像でやはり男女の口から水が出る噴水施設です。斉明天皇の時代に庭園に備えられ来客を喜ばせたのではないのでしょうか。

飛鳥の謎の石造物の一つ益田岩船は近鉄飛鳥駅の反対側、橿原ニュータウンの奥の丘陵（岩船山）の頂上付近にあります。入り口は公園になっておりそこからとても急な山道をロープに捕まりながら登ります。頂上付近の竹林の中に巨大な岩石が横たわっています（写-14）。縦約11m、横約8m、高さ約4.7mの台

形状で東西の側面はほぼ垂直に切り立っています。そして上部から側面にかけて溝と穴が掘られています。用途はわからず、弘法大師の書による巨大な石碑の台石、天体観測台、火葬墳墓、横口式石槨の古墳などの説があります。また松本清張はゾ



写-14「益田岩船」

ロアスター教徒（拝火教）の拝火台であるとの説を小説「火の路」に書いています。

最後にもう一つ金魚の町と知られる大和郡山にある二面石仏を訪れます。大和郡山には大和随一と言われた郡山城がありましたが、今は本丸跡を中心に石垣と堀を残すだけです。大和は良質の石材が乏しかったため築城の際、石仏や石塔、墓石、寺院の礎石などが使われました。その中には頭塔の石仏も石垣に転用されました。本丸跡には柳沢文庫があり、その前に二面石仏はあります(写-15)。片側に十王地蔵が、反対側には閻魔王が半肉彫りに彫刻されたとても珍しい石仏です。残念なことに十王地蔵の首の部分が欠けています。

今回山辺の道を歩き、飛鳥を散策いたしました。今でも万葉集の世界が広がり、どこを歩いても歴史の深さが感じられます。そしてその歴史の証人たる石仏や石造物を見て歩き歴史のロマンに触れてきました。特

に飛鳥の野は一度だけでなく、春夏秋冬、また早朝、夕暮れ、月明かりの中で、ゆっくり、ゆっくり歩きたいものです。



写-15「二面石仏」 大和郡山